

北海道半導体人材育成等推進協議会

第3回本会議

事務局資料

2024年3月27日

経済産業省北海道経済産業局

北海道半導体人材育成等推進協議会：構成機関一覧

人材育成・確保WGは全機関対象。取引活性化WGは教育機関を除く全機関対象。

半導体関連企業	1	株式会社アムコー・テクノロジー・ジャパン	金融機関	23	株式会社商工組合中央金庫	経済団体・業界団体	43	北海道経済連合会
	2	株式会社FJコンポジット		24	株式会社北洋銀行		44	一般社団法人北海道商工会議所連合会
	3	株式会社京都セミコンダクター		25	株式会社北海道銀行		45	一般社団法人北海道機械工業会
	4	株式会社SUMCO	教育機関	26	国立大学法人北海道大学		46	一般社団法人北海道新産業創造機構
	5	株式会社菅製作所		27	国立大学法人室蘭工業大学		47	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター (ノーステック財団)
	6	セイコーエプソン株式会社		28	国立大学法人北海道国立大学機構 北見工業大学		48	独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部
	7	株式会社セコニック電子函館事業所		29	公立千歳科学技術大学		49	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 北海道職業能力開発促進センター
	8	株式会社デンソー北海道		30	公立はこだて未来大学		50	地方独立行政法人北海道立総合研究機構
	9	ニデックS Vプローブ電子株式会社		31	育英館大学		51	一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)
	10	日本電波工業(株)千歳テクニカルセンター		32	北海学園大学		52	一般社団法人ミニマルファブ推進機構
	11	函館電子株式会社		33	学校法人北海道科学大学		53	経済産業省
	12	パナソニックインダストリー株式会社 千歳拠点		34	北海道情報大学		54	文部科学省
	13	ミツミ電機株式会社		35	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 北海道職業能力開発大学校		行政機関	55
	14	メイブデザイン株式会社	36	独立行政法人国立高等専門学校機構	56			財務省函館税関
	15	株式会社メデック	37	函館工業高等専門学校	57			北海道
	16	Rapidus株式会社	38	苫小牧工業高等専門学校	58			千歳市
	17	ラムリサーチ合同会社	39	釧路工業高等専門学校	59			札幌市
人材派遣企業	18	株式会社アウトソーシング	40	旭川工業高等専門学校		事務局：経済産業省北海道経済産業局		
	19	(株)アルプス技研	41	日本工学院北海道専門学校				
	20	(株)エイジエック	42	吉田学園情報ビジネス専門学校				
	21	日総工産株式会社						
	22	日研トータルソーシング株式会社						

・2024年3月27日時点 ・企業名：五十音順、その他：順不同
 ・今後、協議会活動に積極的に取り組む機関を随時追加予定

人材育成・確保ワーキンググループ

半導体人材の育成・確保に関する主な取組

取組1. 人材育成・確保のロードマップ作成

産業界及び教育界にヒアリングを実施。道内における半導体・電子デバイス産業の人材ニーズと教育カリキュラムの適合性確認・可視化・調整を実施し、人材育成・確保ロードマップを作成。

【ヒアリング数】 産業界27社及び教育機関16機関

【ヒアリングのポイント】 産業界～人材ニーズ、採用状況及び今後の採用計画（人材の質と量）

教育界～半導体関連カリキュラムや教育設備の整備状況及び改定計画の有無
理系学生の就職状況調査

取組2. 各機関の取組内容可視化、産業界と教育界を繋ぐアクションの実行

産業界と教育界(教員、学生)を繋ぐ各種アクションをニーズの高いものから順次実施。各企画は、産業界の採用活動、社内教育及びリカレント教育のニーズや人材派遣の活用状況のほか、教育界の既存カリキュラムのスケジュールを踏まえて実施する。

【取組】 実務家教員派遣、出前講座、半導体工場見学（学生・教員）、インターンシップの強化

半導体産業の魅力発信（高等教育機関向け、若年層向けを分けて実施）

道外の教育機関・企業・関係機関との連携なども検討

(取組1) 人材育成・確保ロードマップ作成 (採用希望数)

- 道内の主な半導体・電子デバイス関連企業にヒアリングを実施(27社)。これら企業が主に採用している職種は、開発、設計、生産技術、工程・品質管理、機械保全、オペレーターなど。これら職種に関して、各社によって大学院、大学、高専、専門学校、高校卒の採用区分は様々。
- 道内企業(27社)の2023年度採用実績は約220人。今後の採用希望数は、企業成長等を念頭に、短期的(2025年度)には約1.7倍(370人)、長期的(2030年度)には約1.8倍(400人)(2023年度採用実績比)となることが見込まれる。
- 民間団体が試算した今後の道内半導体関連産業の従業者数をもとに、これから道内立地する可能性のある企業の採用動向の推計も加えると、最大で短期的(2025年度)には約2.2倍(480人)、長期的(2030年度)には約2.9倍(630人)(いずれも2023年度採用実績比)となることが見込まれる。



(取組1) 人材育成・確保ロードマップ作成 (求められる人材像・採用関連の企業認識)

- 現時点のヒアリング対象企業からは、必ずしも半導体の専門コースを学んでいる必要性はなく、**工学分野（電気・電子、化学、物理、機械、情報等）の素養**を身につけた人材を希望する声が多い（入社後、社内で育成するのが一般的）。また、製造ラインの自動化が進む中で、**AI・データサイエンスの素養**が必要とされる傾向も高まっている。
- 加えて、早い段階で自身の専攻分野と半導体産業の接点を意識させる意味でも、半導体分野の教育を学生のうちに受けることは有効であり、**半導体関連教育の充実が期待**されている。
- 道内理工系人材の多くが道外へ就職してしまうことに加えて、半導体関連企業の知名度が**学生だけでなく、保護者や教員の間で低いことが採用活動を困難**にしている、と感じている企業が多い。
- 各社とも即戦力を求めて中途採用を毎年一定数行っているものの、半導体関連産業の就労経験のある人材が道内には少なく、**Uターン人材をターゲット**にしている企業が多い。

【主な意見】

- 新卒学生の確保にあたっては、工学分野の基礎学力があれば問題なく、専門性については多くを求めない。
- 理工系人材の確保には苦戦している。理由は様々あると思うが、学生は大企業に流れてしまうため、知名度の問題を感じている。道内就職したいという人がたまに見つけてくれる程度。
- BtoB企業のため、学生からの興味関心が薄く知名度が低く、人材確保に苦慮している。
- 中途採用について、半導体経験者の数は限られており、そこに絞ってターゲットにするのは厳しい。できるだけ若く（20~30代）あまり色がついておらず伸びしろのある人を中心に選考。道内大学出身者が道外企業に一度就職し、戻ってくるパターンが多い。

(取組 1) 北海道内の主な理工学系学科の定員数・就職者数

- 協議会に参画する教育機関のうち、半導体に関連する学科の入学定員の合計は約5,800人（2023年度）
- 卒業年次において進学者等を除くと、このうち、就職する理工系人材は年間約3,300人（2022年度）

道内理工系学生の入学定員数・就職者数（一部推計）

学校名	課程	定員	就職者数	就職割合	学校名	課程	定員	就職者数	就職割合
北海道大学※	学部	760	111	15%	育英館大学	学部	50	26	52%
	大学院	956	665	70%	北海道職業能力開発大学校※	専門	65	6	9%
室蘭工業大学	学部	560	248	44%		応用	65	64	98%
	大学院	239	212	89%	日本工学院北海道専門学校※	—	120	83	69%
北見工業大学	学部	410	227	55%	吉田学園情報ビジネス専門学校	学科	160	100	62%
	大学院	132	101	77%	函館高専	学科	200	113	57%
千歳科学技術大学	学部	240	166	69%		専攻科	20	18	90%
	大学院	23	19	83%	苫小牧高専	学科	200	102	51%
はこだて未来大学	学部	240	137	57%		専攻科	20	22	110%
	大学院	60	56	93%	釧路高専	学科	160	82	51%
北海学園大学	学部	190	138	73%		専攻科	16	17	106%
	大学院	6	0	0%	旭川高専	学科	160	77	48%
北海道科学大学	学部	312	246	79%		専攻科	16	15	94%
	大学院	17	5	29%	合計		5,752	3,293	57%
北海道情報大学	学部	340	233	69%					
	大学院	15	4	27%					

※定員は、2023年度時点の各学部・大学院の募集要項を参考に事務局作成。建築・土木関係学科を除いて集計。大学院の定員は修士課程と博士課程の合計数、編入定員は除く。

※就職者数は、2022年度卒業生について構成機関の教育機関のウェブサイトを用いて作成。北海道大学、北海道職業能力開発大学校、日本工学院北海道専門学校の就職数は公表データから事務局が推計。

(取組1) 道内理工系学生(大学、高専)の就職動向

- 道内理工系学生(大学・高専生)の就職動向について、多くの大学・高専で道外企業に就職する割合が半数以上であった。
- 道内理工系学生の半導体・電子デバイス企業への就職実績は、一年あたり約100名。道内半導体・電子デバイス関連企業が更に人材確保を進めるためには、「道内に立地する半導体・電子デバイス企業」の認知を早くから高めることが必要になると考えられる。

道内理工系学生(大学・高専)の道内外就職状況 (2022年度就職ベース)

大学・高専名	道内割合	道外割合	大学・高専名	道内割合	道外割合
北海道大学			北海道情報大学		
理工系学部生	37%	63%	学部生	55%	45%
理工系大学院生	20%	80%	函館高専		
室蘭工業大学			本科生	24%	76%
学部生	43%	57%	専攻科生	6%	94%
大学院生	25%	75%	苫小牧高専		
北見工業大学			本科生	40%	60%
学部生	36%	64%	専攻科生	33%	67%
大学院生	21%	79%	釧路高専		
千歳科学技術大学			本科生	37%	63%
学部生	39%	61%	専攻科生	29%	71%
はこだて未来大学			旭川高専		
学部生	26%	74%	本科生	39%	61%
北海道科学大学			専攻科生	7%	93%
学部生	63%	37%			

※構成機関の教育機関のウェブサイトをもとに作成(理工系学生の道内外就職割合を公表している学校分)
 ※本表は理工系の全学科が対象

道内高等教育機関卒業生の主な半導体関連企業就職先 (2020~2022年度)

半導体設計関連	製造装置、素材、電子デバイス
トッパン・テクニカル・デザインセンター メガチップス など	アプライドマテリアルズジャパン 東京エレクトロン
半導体製造関連	道内関連企業
ウエスタンデジタル 加賀東芝エレクトロニクス キオクシア ジャパンセミコンダクター JASM ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング 東芝デバイス&ストレージ ハイコンポーネンツ青森 富士電機 マイクロンメモリジャパン ユナイテッド・セミコンダクター・ジャパン ラピスセミコンダクタ ローム浜松 など	ダイフク イビデン 千住金属工業 トランストロン 日本電波工業 北一電気 など 釜屋電機 京都セミコンダクター 新光商事LSIデザインセンター セイコーエプソン デンソー北海道 パナソニックスイッチングテクノロジーズ ミネベアアミツミ ユニマイクロンジャパン など

出所: 構成機関の教育機関のウェブサイトをもとに作成

大学・高専生の就職動向概観



※構成機関の教育機関からの聞き取り

（取組1）まとめ

【道内半導体・電子デバイス関連企業の採用状況】

- 2023年度 **採用実績** 約220人（新卒、中途）
- 2030年度 **採用希望数** 約630人（同上） **→現状より年間410人増**

（参考：全国の半導体関連産業の人材動向）

今後10年間で4万人、年間では約4千人の半導体人材が必要（JEITA半導体部会主要企業8社による見込み）

【現在の道内理工系学生（構成機関）の動向】

道内理工系学科の**入学定員数は約5,800人**。うち、進学等を除く**就職者数は約3,300人**。

【人材育成・確保の方針】

2030年度までに、道内の半導体・電子デバイス関連企業への就職者数を現状に比して、**年間約400人増（約3倍）**とするために、本協議会（産学官連携）で、人材育成、人材確保策の拡充を図る。

北海道で学ぶ人材を
全国の半導体関連企業へ輩出

北海道で学ぶ人材の
道内半導体・電子デバイス関連企業での活躍

全国の優秀な人材を
道内企業に誘引

求められるアクション

人材育成関連

①各校のカリキュラム
強化（P10～14）

②実務家教員派遣
（P19）

③工場見学
（P20）

④インターンシップ強
化（P21）

⑤若年層向け魅力発信
事業（P16～17）

⑥中途採用支援
（P22）

⑦構成機関各社の
PR支援（今後強化）

人材確保関連

(取組 1) 人材育成・確保ロードマップ

【人材育成・確保の方針】

2030年度までに、道内の半導体・電子デバイス関連企業への就職者数を今より年間約400人増（約3倍）とするために、本協議会（産学官連携）で、人材育成、人材確保策の拡充を図る。

人材需要（採用希望数）
主要27社への聞き取り及び
 将来可能性の推計

約220人（実績）	約480人	約630人
-----------	-------	-------

2023年度 活動開始	2024年～ 2025年度	2026年度～2030年度…
----------------	---------------	----------------

重点支援フェーズ

発展フェーズ （人材育成・確保エコシステムの確立）

魅力発信

若年層向け魅力発信事業

「ものづくり」「科学」の面白さの発信
 教員、保護者層の理解促進

実施地域・頻度の拡充
 教員、保護者層の理解定着

構成機関各社のPR支援

展示会等での業界PR活動

北海道以外の地域・企業と連携した業界PR活動

人材育成

各校のカリキュラム強化

産業界ニーズの橋渡しによる
 カリキュラム強化の支援

教育機関同士の連携促進

実務家教員派遣

教員派遣協力企業の拡充

他地域連携による「教員人材プール（仮）」の整備

工場見学

受け入れ企業、参加校の拡充

知識を深める製造現場体験の提供

人材確保

インターンシップ強化

学生と企業のマッチング促進
 インターンプログラム充実化

実践的インターンシップの定着

中途採用支援

U・Iターン人材へのPR強化

半導体分野のリスキリングと組み合わせた
 即戦力人材の確保

「魅力発信」「人材育成」「人材確保」の各施策を長期的観点で有機的に繋ぎ合わせ、好循環を生み出すことで、北海道から安定的に半導体人材を輩出できる環境を整備する。

(取組2)各機関の取組内容可視化、産業界と教育界を繋ぐアクションの実行

- 産業界の採用活動や教育界の既存カリキュラムのスケジュールを踏まえ、**産業界と教育界(教員、学生)を繋ぐ各種アクションをニーズの高いものから順次実施。**
- 本協議会が主体となって行うプログラムだけでなく、構成機関が独自に実施する取組をとりまとめ可視化することで、各取組の施策効果最大化を図るため、協議会活動趣旨に類する企画を実施された機関は事務局まで報告いただきたい。

人材育成・確保関連の各機関の取組

・2024年3月時点情報/計画中のものを含む/随時更新
 ・広く市民向けに行われるセミナーは整理から除外

	小学校・中学校	高校	高専	専門学校	大学	大学院	社会人
魅力発信	工場見学・出前授業 【経産局・北海道】	半導体・電子デバイス魅力発信授業 (道内複数校) 【経産局・北海道】					企業見学会・企業情報の発信【労働局】
	科学体験イベント (サイエンスパーク) 【北海道、道総研、北大】	半導体関連企業見学 バスツアー【北海道】					
			学生とビジネスEXPO出展企業の交流【ノーステック財団】				
			キャリア講演会【JEITA】				
		サイエンスフェスタ【北大、北海道、札幌市】					
人材育成	教育資材を用いた 体験教室 【北海道】	半導体出前授業 【北海道】	COMPASS5.0 【拠点校：旭川・釧路 高専、実践校：苫小 牧・函館高専】		大学・高専機能強化支援事業採択 【北大、室工大、道科学大】		半導体人材育成講座 【北海道】
			出前講座・実務家教員派遣・インターンシップ・工場見学等 【経産局・協議会】				生産性向上支援訓練/ 能力開発セミナー 【ポリティケンター、能開大】
							公的職業訓練(ハローレニ ング)、リスキリング推進、人材 開発支援助成金【労働局】
人材確保		中小企業・小規模事業者の人材確保支援等事業【経産局】					
		インターンシップ受け入れ【各企業】					
		半導体関連企業合同説明会【労働局、千歳市】					
		高専卒Uターン・Iター ン検索システム 【各高専協力会】			UIターン推進(合同企業説明会など) / 首都圏からの移住相談対応 【労働局/北海道】		

(取組2) 各校のカリキュラム強化① 北海道大学

- 北海道大学は、2023年10月、「半導体拠点形成推進本部」を設置。半導体関連の人材育成、研究、学外機関との連携等について戦略的な方針を策定することにより、学内の半導体分野の人材の育成及び研究の推進することとしている。
- 2024年1月には、東北大学と連携協定を締結。両大学の特色及び教育研究資源を活かし、有為な人材の育成や教育の充実、研究の推進を図る。初めは半導体に関する教育・研究での連携を広げていく予定で、eラーニングの共有化をスタートさせることで半導体分野の人材育成に取り組むこととしている。

北海道大学半導体拠点形成推進本部の設置 (2023年10月～)

産学官とのハブとして国・地域・産業界の課題解決に貢献するとともに、
本学における半導体関連研究・人材育成等の推進を図る



北海道大学・東北大学 連携協定締結式



【連携・協力事項】

- 一 教育に関する事項
- 二 研究に関する事項
- 三 産学連携に関する事項
- 四 社会貢献に関する事項、ほか

(取組2) 各校のカリキュラム強化② 北海道科学大学

※第2回本会議資料再掲

- 北海道科学大学は、2025年4月に工学部情報工学科を改組し、情報科学部 情報科学科（設置構想中）を新設する（※）。AI・データサイエンス分野、情報システム分野、マルチメディア情報処理分野を体系的に学ぶカリキュラムを整理。加えて、半導体関連の副専攻を設定し、半導体分野の教育環境も整備予定。

北海道科学大学 情報科学部 ウェブサイトから引用
<https://www.hus.ac.jp/information-science/>

FIELD OF STUDY

学べる分野
情報科学部ではAI・データサイエンス分野、情報システム分野、マルチメディア情報処理分野について学修し、あわせて各分野の基礎となる「基盤能力」の修得も行います。

AI・データサイエンス分野	情報システム分野	マルチメディア情報処理分野
 <ul style="list-style-type: none">・機械学習・最適化・知能処理・知識処理	 <ul style="list-style-type: none">・SNS・WEBアプリ・クラウド・情報セキュリティ・システム開発・スマホアプリ・IoT	 <ul style="list-style-type: none">・音声処理・映像処理・映像処理・仮想現実&拡張現実

専門基礎

数学	データ処理	プログラミング	PCリテラシー	データベース	コンピューターネットワーク
----	-------	---------	---------	--------	---------------

基盤能力

コミュニケーション力	課題発見解決力	自己実現力	ヒューマニティ
------------	---------	-------	---------

※学部新設の計画は2023年7月、（独）大学改革支援・学位授与機構の大学・高専機能強化支援事業「学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援」対象事業大学として選定されている。

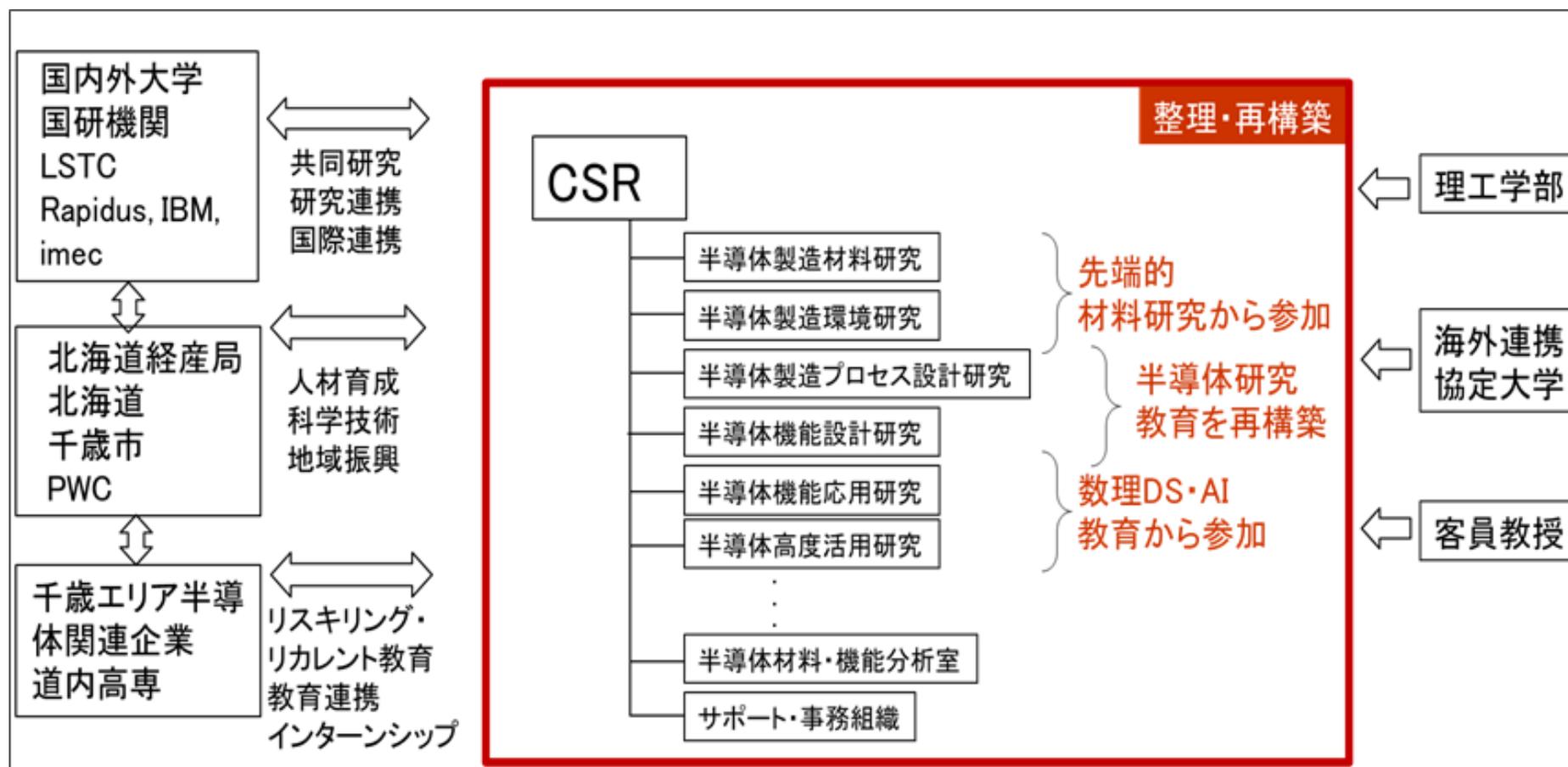
【大学・高専機能強化支援事業】大学、高専に対し、デジタル・グリーン等の成長分野の学部等の設置等に必要な資金に充てるための助成金を交付することにより、全国各地における当該成長分野の学部等の設置等を促進することを目的とした助成事業。

(取組2) 各校のカリキュラム強化③ 千歳科学技術大学

- 千歳科学技術大学は、2024年4月に「千歳シリコンリサーチセンター (CSR)」を新設する。先端材料から半導体製造プロセス、数理データサイエンス・AI分野など、大学院における各分野の研究・教育体制を再構築し、半導体関連教育の充実化を図る。

千歳科学技術大学「千歳シリコンリサーチセンター (CSR)」組織体制 (案)

2024年3月末現在



(取組2) 各校のカリキュラム強化④ 4高専(旭川、釧路、苫小牧、函館)

- 旭川高専は、2023年10月から「半導体概論」を開講。釧路高専は、同年12月から「半導体工学概論」を開講。高度理系専門分野の基礎に重点を置き、半導体産業のみならず「北海道の産業全体を支える人材の育成」を目指す。
- 2024年1月、道内4高専は半導体分野の競争力向上に資することを目的に「北海道地区高専半導体人材育成連携推進室」を設置。半導体人材育成に係る情報共有や関係機関との連携、戦略的方針の策定を行う。
- 次年度は、低学年向け半導体導入授業「北海道半導体みらい論」を4高専協同で開設、大学と連携した半導体デバイス作製体験プログラム実施など、産官学連携をさらに発展させるとともに、海外交流の可能性を模索。

育成する人材像

①半導体を創る

ニーズに応じた半導体を設計・製造できる人材

②半導体を使う

ニーズに沿って半導体を活用し新しい価値を生み出すことを通して社会を発展させることができる人材

③半導体で広げる

半導体関連のエコシステム形成を通じて地域・日本を発展させることができる人材



主な実施事項

カリキュラムマネジメント

- ・社会の発展がわかる自分ごとにする
- ・共通科目、創造科目

北海道半導体みらい論

1-3年対象(建設系も)
令和6年4月から

半導体工学概論

4-5年対象
受講できる仕組み構築

他機関との連携

編入学・大学院進学、共同研究などを通しての連携、関連企業への就職・国内外インターンシップなど

(取組2) 各校のカリキュラム強化⑤ 日本工学院北海道専門学校

- 日本工学院北海道専門学校は、2024年度から全10科の共通科目として「半導体概論」及び「半導体技術者検定講座」を開講する。半導体製造や関連分野を担う人材の需要増に対応し、工業分野以外の学生も選択可能としている。

半導体概論

【授業の目的】

半導体を用いたデバイスの種類やその内部における電子の作用などについて、工学分野を目指すにあたって必要となる基礎知識を学んでいく。

【カリキュラム】2024年度前期、全15回

「半導体とは」、「半導体の基礎物性」、
「デジタル回路」、「半導体を活用したデバイス」等



半導体技術者検定講座

【授業の目的】

半導体に携わる技術者のための検定である半導体技術者検定（エレクトロニクス3級）の合格に向けた知識を身に着ける。

【カリキュラム】2024年度前期、全15回

「半導体の基礎」、「半導体の品質保証」、
「半導体製品の分類」、「半導体の試験項目」等

画像出典：日本工学院北海道専門学校

(取組2) ビジネスEXPO 北海道半導体産業ブース出展

※第2回本会議資料再掲

- ノーステック財団は、北海道ビジネスEXPOに北海道半導体産業ブースを設置し、ミツミ電機(株)、(株)アムコー・テクノロジー・ジャパン、(株)Rapidus、北海道庁がブース内に展示物を配置。回路形成後のウエーハの実物（前工程）、様々なパッケージの種類（後工程）、スマートフォンに搭載される半導体製品の役割など、半導体加工プロセスの流れに沿って展示し、各社から説明を行うことで**半導体を身近に感じる体験を提供**。
- 大学、高専、高校を計10校、学生約1,100人を招待し、多数の来場者がブースを見学。出展企業のうち一部の企業は学生向け企業説明会も実施。（大学生約200人、高専生約150人、高校生約750人参加）

ミツミ電機(株)ブース



(株)Rapidusブース



(株)アムコー・テクノロジー・ジャパンブース



学生向け企業説明会の様子



(取組2) 若年層向け魅力発信事業 半導体・電子デバイス工場見学会 (中学生)

- 北海道経済産業局は、北海道、千歳市等と連携し、半導体・電子デバイス関連産業の魅力発信事業として、千歳市内の中学生を対象とした工場見学会を実施。(当日はテレビ局4社、新聞社3社による取材あり)
- 今年度内に、半導体関連企業から講師を派遣して行う体験型の理科授業(小学生向け)や、半導体・電子デバイス関連産業の理解を深めるセミナー(高校生向け)を実施予定。

開催概要

【日時】 2023年10月30日(月)

【内容】 千歳市立向陽台中学校(1年生、59名)が地元の半導体・電子デバイス関連企業を訪問、工場施設見学

【主催】 経済産業省北海道経済産業局

【共催】 北海道半導体人材育成等推進協議会

【協力】 北海道教育庁、千歳市教育委員会、

パナソニックインダストリー(株)、ミツミ電機(株)



パナソニックインダストリー(株)



ミツミ電機(株)

生徒へのアンケート結果(一部)

- ・工場見学の満足度:「満足」「やや満足」が99%
- ・製品について理解できたか:「理解できた」「やや理解できた」が90%以上
- ・見学前より半導体に興味がわいたか:
「とても興味がわいた」が18%、「少し興味がわいた」が63%、「あまり変化がない」が16%

アンケート自由回答欄

- ・実際に身近で機械を見ることができて迫力があつた。
- ・クイズ形式でわかりやすく半導体について説明してくれて、すごく楽しかった!
- ・あまり興味がなかったことに触れてみたから、興味が少しわいた。
- ・あまり知らなかったけど、こんな身近に半導体があることにびっくりした。また同じような機会があればいいなと思った。
- ・千歳には、すごい工場がたくさんあるということがわかった

(取組 2) 若年層向け魅力発信事業 出前授業 (高校生・小学生)

- 北海道経済産業局、千歳科学技術大学、千歳市内の半導体・電子デバイス企業3社は、北海道及び千歳市等と連携し、半導体・電子デバイス関連産業の魅力発信事業として、千歳市、札幌市の高校生や千歳市の小学生を対象とした出前授業、体験授業を実施。

高校生向け魅力発信授業

実施年月	2023年12月	2023年12月～2024年2月
対象	北海道千歳高等学校2年生	北海道札幌工業高等学校 電気科1年生 北海道札幌琴似工業高等学校 2年生 (全科) 北海道苫小牧工業高等学校 2年生 (全科)
協力機関	公立千歳科学技術大学	(株)デンソー北海道 パナソニックインダストリー(株) ミツミ電機(株)



千歳科学技術大学 福田教授による
高校生への半導体基礎に関する授業

小学生向け体験型理科授業

実施年月	2023年12月	
対象	千歳市立泉沢小学校 3年生 千歳市立向陽台小学校 5年生、6年生	
協力機関	(株)デンソー北海道	



モーターの仕組みやはたらきを身近な
機器を使って小学生に体験してもらう
(協力: (株)デンソー北海道)

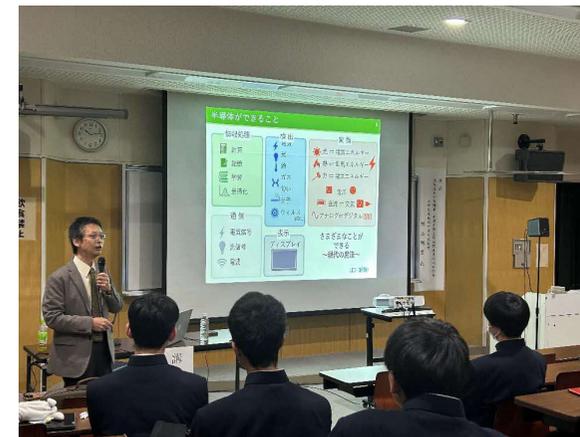
(取組2) 北海道の主な取組

- 道は、道立高校・MONOテクでの出前講座や半導体関連企業を見学するバスツアーを実施。また、若年層を対象とした認知度・関心向上に向けた取組を実施。

① 道立高校・MONOテクでの出前講座の開催

半導体や半導体関連産業への理解を深めるため、道立高校6校及びMONOテク1校で出前講座を開催。

- ・北見工業高校 [2023.11.8] ・旭川工業高校 [2023.11.17]
- ・釧路工業高校 [2023.12.21] ・室蘭工業高校 [2024.1.19]
- ・函館工業高校 [2024.1.25] ・北広島高校(普通科) [2024.2.7]
- ・MONOテク函館 [2024.1.26]



北見工業高校における出前講座の様子(2023.11.8)

② 半導体関連企業見学バスツアーの開催

次世代のものづくり人材の育成のため、高専及び道立高校を対象に、半導体関連企業を見学するバスツアーを実施。

- ・旭川工業高等専門学校 [2023.12.11 旭川市内1社]
- ・帯広工業高校 [2023.12.18 パナソニックスイッチングテクノロジーズ(株)]



サイエンスフェスタでのアニメ動画放映の様子(2023.12.16~17)

③ 若年層を対象とした認知度・関心向上に向けた取組の実施

若年層の認知度・関心の向上を図るため、サイエンスパークやサイエンスフェスタにおいて、半導体に関するパネル展示やアニメ動画放映を実施。



(アニメ動画 [道HP])

(取組2) 産業界と教育界を繋ぐアクション 実務家教員派遣

- 製造現場の最新の技術や知見を反映した授業を取り入れたいとの意向から、大半の教育機関が、産業界からの実務家教員の派遣を希望している。道内企業の中にも教育機関と恒常的な関係性を構築する観点から、教員派遣に前向きな回答をする企業が複数あり。
- 2023年度下期は、旭川高専及び北見工大で実務家教員派遣事業を実施。教育機関によっては、外部教員による授業の手続きに相当期間を要する場合があるほか、実務家教員が担当する授業分野について学生がどの程度の知識を習得しているか、教育機関と産業界側の認識を揃えるため複数回にわたって打合せを要するなど、事前準備が重要であることがわかった。
- 今後、派遣を希望する教育機関の要望に応じてマッチングを実施するが、現時点では協議会参画企業が多くないこともあり、企業側の負担にも配慮も必要なる。(道内企業で適当なマッチングが困難な場合は、道外企業とのつなぎ合わせが必要になる可能性)

実施校	北見工業大学	旭川高専
実施年月	2023年12月 (計1コマ)	2023年12月～2024年2月 (計5コマ)
実務家教員/ 授業テーマ	<p>テーマ①：半導体製造プロセス (前工程) 講師：ノーステック財団 アドバイザー 小黒 敏 氏 (ミツミ電機(株)OB)</p> <p>テーマ②：半導体製造プロセス (後工程) 講師：(株)アムコー・テクノロジー・ジャパン 技術課長 若生 克則 氏</p> 	<p>テーマ①：半導体製造プロセス (前工程) 講師：ノーステック財団 小黒 敏 氏</p> <p>テーマ②：半導体製造プロセス (後工程) 講師：(株)アムコー・テクノロジー・ジャパン 函館組立技術課 課長 前田 剛 氏</p> <p>テーマ③：シリコンウェーハ製造 講師：(株)SUMCO 人事労政部 シニアマネージャー 神田 忠 氏</p> <p>テーマ④：エッチング・検査技術、-SEM入門- 講師：(株)日立ハイテク プロセス企画部 部長 大竹 浩人 氏 評価企画部 部長代理 酢谷 拓路 氏</p> <p>テーマ⑤：半導体デバイス・プロセスの最新動向 講師：(株)産業タイムズ 特別顧問 加藤 一 氏 ((株)東芝OB)</p> 
対象学年	先端材料物質総合工学 2年生ほか90名	全学科対象 (「半導体概論」受講生) 4, 5年生

(取組2) 産業界と教育界を繋ぐアクション 教員による工場見学・座談会

- 学生の道内就職を促進するにあたり、まずは**半導体・電子デバイス関連の研究者や就職支援を担う教員**が道内半導体関連企業との交流を深めたいとの意向が多いため、**教員による道内半導体関連企業との交流会・工場見学会**を開催。
- 工場ではどのような半導体製造装置を用いて大量生産を実現しているかなど、**教育・研究現場との差異や、道内校出身のエンジニアに期待される分野、社内の教育体系**などについての質疑が活発に行われた。

実施日時・見学先企業	参加者（教育機関） 全9校
第1回 2024年2月16日（金） 【見学先】 (株)京都セミコンダクター恵庭事業所 （光半導体デバイス） (株)SUMCO千歳工場 （半導体用シリコンウェーハ）	<大学> 北海道大学、北見工業大学、育英館大学、北海学園大学、北海道科学大学 <大学校> 北海道職業能力開発大学校 <高専> 苫小牧工業高等専門学校 <専門学校> 日本工学院北海道専門学校、吉田学園情報ビジネス専門学校
第2回 2024年2月20日（火） 【見学先】 (株)デンソー北海道 （車載用センサー）	※このうち、第1回は8校から13名、第2回は別の8校から17名参加



【参加者の声】

- ものづくりの現場を見学できたのは有意義で、知識としては知っていても、実際に目にするのは初めてという装置が沢山あった。
- 今後、**学生に同様の見学の機会があれば、座学だけでは得られない加工プロセスの詳細を知ることができたり、道内にある半導体企業の現場を知ること、就職先候補の認知度をあげる効果も期待**できると思う。
- 工場内のデジタルツール導入の経緯や稼働状況を説明いただき、エンジニアがどのように工場内DXに取り組んでいるか興味深かった。また、社内の人材育成と技能検定についても参考になった。

(取組2) 産業界と教育界を繋ぐアクション インターンシップ

- 協議会参加企業に、インターンシップ実施状況等のアンケートを実施。
- インターンシップ情報の学生へ効果的な周知や、インターンプログラムの充実化を希望する企業に対し専門家による講習などを期待する回答があったため、2024年度の実施を検討。

アンケート調査（2024年2月）：協議会参画企業のインターンシップ実施状況および施策案へのニーズ有無について

【実施有無】 約70%が実施計画が「ある」と回答。「ない」・「未定」はそれぞれ約15%。

【実施時期】 夏休みが大半（8月～9月）

【期 間】 1週間程度が多い（最短3日～個別対応）

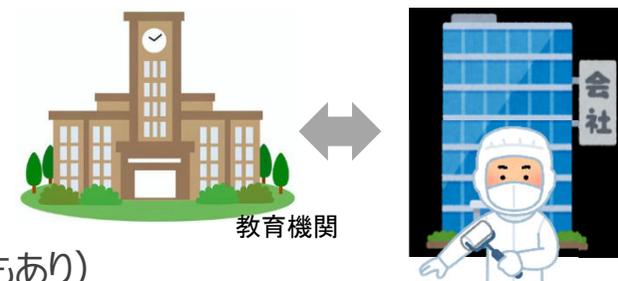
【受入人数】 5名程度が多い（最小1名～最大10名）

【ニーズ有無】 ①「協議会によるインターンシップ周知を希望するか？」

約70%が「希望する」と回答（ただし「周知先は限定したい」との要望もあり）

②「インターンシップ専門家の講習を希望するか？」

約40%が「希望する」と回答



2024年度実施予定

対応1：協議会によるインターンシップ実施情報の教育機関への周知（マッチング促進）

- インターンシップ募集企業の実施情報を集約し、企業ニーズに応じた参画校へ周知することで、学生の応募を促進

対応2：専門家による講習会の実施（プログラムの充実）

- 専門家による講習会を実施し、インターンシッププログラムの充実と学生の満足度向上を目指す。

対応1, 2とも4～5月頃に実施予定

(取組2) その他のアクション Uターン・Iターン人材確保

- 厚生労働省北海道労働局主催、北海道共催で、「北海道U・Iターンフェア2024春」(東京)を開催。道内企業50社のうち、半導体関連企業(本協議会参画企業)から、Rapidus(株)及び(株)メテックが参加。
- 北海道労働局(ハローワーク千歳)が、2025年3月に大学等卒業予定の学生(既卒者等含む)を対象に、千歳市及び恵庭市に立地する(予定含む)半導体・電子デバイス企業による合同企業説明会を開催。

北海道U・Iターンフェア2024春 合同企業説明会

【イベント概要】

＜日時＞2024年3月2日(土) ＜会場＞東京都内

＜主催＞厚生労働省北海道労働局 ＜共催＞北海道

＜参加対象＞北海道へのU・Iターン就職を希望する方
(2025年3月卒業予定の学生を含む)

＜出展企業＞道内企業50社

※うち、半導体関連の出展企業

(株)Rapidus、(株)メテック、(株)トータルデザインサービス

※太字は本協議会参画企業



詳細情報

<https://hokkaido.ui-turn.net/>

2025大卒等 半導体関連企業 合同説明会

【イベント概要】

＜日時＞2024年3月13日(水) ＜会場＞千歳市内

＜主催＞ハローワーク千歳、札幌新卒応援ハローワーク、
厚生労働省北海道労働局

＜参加対象＞2025年3月に大学(院)、高専、専修学校、
職業能力開発校を卒業・修了予定の学生

※対象者以外の学生及び既卒者等の参加も可能

＜参加企業＞**(株)FJコンポジット、(株)京都セミコンダクター、**
ジャパンマテリアル(株)、大陽日酸エンジニアリング
(株)、**(株)デンソー北海道、パナソニックインダスト**
リー(株)、北海道日興電気通信(株)、ミツミ電機
(株)、ユニマイクロンジャパン(株)、Rapidus(株)、
ラムリサーチ合同会社

※太字は本協議会参画企業

詳細情報

<https://jsite.mhlw.go.jp/hokkaido-hellowork/handotai-setumeikai.html> 23

(その他) ヒアリングでの主な意見

- 多くの大学、高専で半導体関連や各工学分野の基礎教育が実施されており、ニーズに応じて拡充することも検討しているが、**教員の確保や研究設備の整備が課題**となっている。特に、どの教育機関もクリーンルームや実験機器の維持・更新が困難になっており、今後、設備を**教育機関同士で共有する場合は、維持に要する人的・資金的リソース確保が課題**になるとの認識。
- 企業のリスキングニーズは各社毎に異なり、**大企業はオンライン研修環境などが充実している一方、中小企業は社内教育に十分なリソースが割けない現状**がある。

教育機関 研究設備の課題

- クリーンルームを持っている研究室はあるが、維持費不足のため現在は止まっている。装置は学生実験レベルの小規模な測定装置があるのみ。
- 学校間連携の中でも、単位互換は制度的なハードルが多く容易でない。教育機関だけでなく企業も絡めて、座学や実習による人材育成プログラムを構築し、修了認定できる仕組みを構築できないか。



半導体関連産業に関心を持つ学生を増やすために、教育機関において実機に触れることができる研究・実験設備の拡充は重要な課題。

九州地域等では人材派遣会社や半導体機器商社が教育設備を整備もあることから、道内における体制構築について引き続き検討が必要。

企業 リスキングニーズ

- 社内が必要とされるスキルマップに応じて教育研修がプログラムされている。(大企業)
- 社内研修は興味のある分野を年次によらず受講できる。道外本社と同じカリキュラムを受けることができ、北海道だからと選択肢が少ないということはない。(大企業)
- 自社で教育プログラムを整備する余裕がないため、オンラインで受講できる動画やZOOM講座などがあると助かる。



業種や企業規模が様々なことから、現時点で特定の分野に対するリスキングニーズまでは確認されなかったため、対応は継続検討。

人材育成・確保WG 2024年度の取組方針

- 2024年度は、2023年度に試行した各取組を継続実施することをベースに、内容、開催地域、参加企業・教育機関の拡充を図る。

①実務家教員派遣

教育機関のニーズに合わせ、引き続き企業との調整・マッチングを実施。また、教育機関が独自に行った実務家教員による講義情報も含めて事例を収集し、産・学の自発的な取組を促進する。

②工場見学会

道央地域で行う場合は学生向けに、他地域（函館地域等）で行う場合は、ニーズに応じて教員向け・学生向け開催を検討。

③インターンシップ

2023年度実施する意向調査を踏まえ、2024年度のインターンシップ開催情報を教育機関に周知。

④若年層向け魅力発信事業

関係行政機関と連携し、千歳地域以外での実施や、教員の理解促進なども含めた企画を検討。

⑤その他

- ・2023年度に調査した各教育機関のカリキュラム調査、主要企業への採用実績・採用希望数のフォローアップ
- ・教育機関同士の連携によるカリキュラム・設備共有等の実施可能性の検討
- ・製造業、半導体・電子デバイス関連展示会を活用した道内企業のPR支援
- ・中途採用支援の拡充（U・Iターン人材確保イベント など）

2024年度のスケジュール

【本会議】2024年7月頃、2025年3月頃

【WG】 2024年秋頃

その他、各企画の詳細は随時、関係機関で調整

(参考) 北海道内の主な半導体・電子デバイス関連企業(26社・27事業所)

①札幌市

新光商事エルエスアイデザインセンター株式会社／LSI設計
株式会社DNPエル・エス・アイデザイン 札幌デザインセンター／LSI設計
株式会社トータルデザインサービス／LSI設計
株式会社トッパン・テクニカル・デザインセンター 北海道デザインセンター／LSI設計
メイビスデザイン株式会社／LSI設計
大熊ダイヤモンドデバイス／ダイヤモンド半導体研究開発

②恵庭市

株式会社京都セミコンダクター恵庭事業所／光通信デバイス
ユニマイクロンジャパン株式会社／プリント配線基板

④七飯町

(株)アムコー・テクノロジー・ジャパン 函館工場／半導体組立

⑤函館市

函館電子株式会社／半導体組立・実装
株式会社セコニック電子函館事業所／EL製品
株式会社メデック／半導体製造装置

⑥北斗市

株式会社菅製作所／半導体製造装置、研究用装置

⑦上砂川町

株式会社京都セミコンダクター上砂川事業所／光通信デバイス

⑧奈井江町

釜屋電機株式会社奈井江工場／抵抗器

⑨三笠市

北海道オリジン株式会社／ダイオード

⑩旭川市

東芝ホクト電子株式会社／フレキシブルプリント配線板

⑪上富良野町

ニデックS Vプローブ電子株式会社／半導体テスト部品

⑫帯広市

パナソニックスイッチングテクノロジーズ株式会社
／自動車用リレー

③千歳市

セイコーエプソン株式会社千歳事業所／TFT液晶パネル
株式会社デンソー北海道／車載用センサー
ミツミ電機株式会社千歳事業所／アナログ半導体
Rapidus株式会社／ロジック半導体(2025年工場完成予定)
株式会社SUMCO千歳工場／半導体シリコンウェーハ
株式会社FJコンポジット／放熱板、双極材、絶縁回路基板
日本電波工業株式会社千歳テクニカルセンター／水晶デバイス、光学機器
パナソニックインダストリー株式会社
デバイスソリューション事業部千歳工場／積層デバイス

(出所) 各社ウェブサイトをもとに、北海道経済産業局作成(2024年3月時点)

取引活性化ワーキンググループ

半導体関連産業の取引活性化に関する主な取組

取組 1. 道内半導体関連企業のヒアリング調査／サプライチェーンマップ作成

企業ヒアリングを元に各企業の取引実態を調査し、道内半導体・電子デバイス産業のサプライチェーンマップを作成。

【ヒアリング数】 産業界39社

【ヒアリングのポイント】 現状の取引状況やサプライチェーン上の課題を確認、各社の課題意識を類型化。

将来の集積状況についても、協議会参画機関の各取組と連携し可能な限り調査を実施。

【サプライチェーンマップの集計状況】 3月末時点で掲載の了解企業は106社となった。

取組 2. 取引拡大方策の検討

ヒアリングで得られた課題認識を元に、道内半導体・電子デバイス企業の競争力強化に向け、ニーズに対する方策やアクションを検討。

1. 企業間交流の深化
2. 連携・共同事業の検討（域内企業のマッチングなど）
3. 地域の研究シーズと企業のマッチング

(取組1) サプライチェーンマップ作成に向けた整理事項

- 2023年9月以降、半導体・電子デバイス関連企業へヒアリングを実施した。サプライチェーンマップは電子データで作成し、北海道経済産業局ウェブサイトに掲載。主に、**道内企業の取引拡大（地場調達の促進）、道内中小企業の半導体業界への参入促進、半導体関連取引実績のある企業情報の発掘などの参考資料として作成。**
- 半導体、電子デバイス、製造装置、材料など幅広い業種を対象に構成。製造工程・製品別は、「**半導体関連**」「**電子デバイス**」「**半導体製造装置、生産設備関連**」の3類型としているが、今後の企業集積の状況によって企業情報を追加することも想定し、分類は柔軟に設定する。
- 2024年3月末時点で**掲載企業は106社・117事業所**（別添：サプライチェーンマップ）

製造工程・製品別の分類

半導体関連（各工程の部素材、周辺サービス含む）

設計・デザインハウス・研究開発	前工程(パターン形成～ウエハテスト)	後工程(ダイシング～ファイナルテスト)
-----------------	--------------------	---------------------

電子デバイス

電子部品（抵抗器・コンデンサ、リレー等）	電子機器の設計・製造、基板実装	プリント配線基板製造	その他の部素材等
----------------------	-----------------	------------	----------

半導体製造装置、生産設備関連

半導体製造装置、半導体関連装置部品	金属加工、治具、金型	熱処理・めっき・表面処理	樹脂成型	その他の部素材加工
-------------------	------------	--------------	------	-----------

(取組2) 取引課題ヒアリングの状況報告 等

- 調達の決裁権は(道外の)本社にあるが、**品質・価格・納期のほか、レジリエンス確保の観点から、道内企業に優位性があれば調達先変更を本社へ提案することは可能**とする企業が複数。
- 材料や装置部品 of 他社との融通や、資材を**共同保管できる倉庫**の整備に期待する声がある。また、**様々な困りごとを相談しあえるネットワークの構築**や、将来的に**東北圏まで含めて交流拡大**を望む企業が複数あった。
- ラピダス進出を機に道内拠点の拡充を期待するが、**同一メーカーの装置でも駐在する作業員がすべての装置には対応できない可能性もあり**、状況が好転するかは未知数。

取引状況・課題の主なコメント

調達

- ✓ 本社に提案し調達先を道内企業に切り替えた実績あり。**物流コスト、災害レジリエンスの観点で道内調達を進めたい。自分たちで情報収集するが狭い範囲でしかない。**

企業間連携

- ✓ 材料や部品の他社との融通について、**予備品を持たなくて済むというメリット**はある。企業同士が**資材を共有して保管できる倉庫**があればよい。
- ✓ **困りごとをネットワーク内で相談すると、協力できる企業が反応して助けてもらえることが理想**。道内だけでなく**東北圏も含めたネットワーク**ができるといい。

装置メンテナンス

- ✓ メンテナンス時の**技術員派遣費用が年々高くなっている**。
- ✓ 同一メーカーの装置でも、これから駐在する作業員が当社の古い装置にまで対応できるかはわからない。

生産性向上

- ✓ ボリュームだけでなく、AIなどによる付加価値を付ける試みを検討。DX、スマートマニュファクチャリング等の推進に課題がある。

その他、道内教育機関の半導体関連研究シーズをとりまとめを行った。
今後、産業界及び教育機関で情報共有を行っていく。

(取組2) 取引拡大への対応 (ビジネスマッチング) ①

- ヒアリングでは、**物流コスト、災害レジリエンスの観点で道内企業との取引を進めたいが、自社では情報収集に限界がある**という課題があげられた。
- これに対して、**半導体・電子デバイス企業3社（発注側）**から幅広くニーズを募り、**道内に事業所を有する企業（提案側）**が**技術・製品・サービスを提案する個別ビジネスマッチング**を開催した。
- **道内企業78社から116件の提案があり**、発注企業による選考の結果、**当日は35社が41商談を実施**。
- 2024年度は、今回の**発注企業・提案企業へのヒアリング**を踏まえ、**道内での継続開催や他地域と連携した開催等**を検討。

半導体・電子デバイス企業（発注側）× 道内企業（提案側）ビジネスマッチング

日時：2024年3月19日（火） 会場：札幌市内

ビジネスマッチングまでの流れ



半導体・電子デバイス企業（発注側）



(株)京都セミコンダクター



(株)SUMCO



(株)デンソー北海道

応募企業/面談企業の概要 (応募企業78社、面談企業35社)

応募企業78社の概要				面談企業35社の概要			
半導体・電子デバイス関連企業との取引実績				半導体・電子デバイス関連企業との取引実績			
有り	無し	未回答	合計	有り	無し	未回答	合計
42社	28社	8社	78社	24社	11社	0社	35社
本社所在地				本社所在地			
札幌市	千歳市	石狩市	北広島市	札幌市	千歳市	石狩市	北広島市
37社	1社	2社	4社	14社	1社	1社	2社
小樽市	室蘭市	苫小牧市	安平町	小樽市	室蘭市	苫小牧市	安平町
1社	1社	4社	1社	0社	1社	2社	1社
旭川市	帯広市	幕別町	北海道外※	旭川市	帯広市	幕別町	北海道外※
1社	3社	1社	22社	0社	0社	0社	13社

※道内に事業所を持つ道外本社企業

(取組2) 取引拡大への対応 (ビジネスマッチング) ②

応募数/面談数データ (応募数116件、面談数41件)

発注ニーズへの応募 100件、面談 37件						フリー提案への応募 16件、面談 4件		
ニーズ概要	応募数	面談数	ニーズ概要	応募数	面談数	フリー提案カテゴリ	応募数	面談数
製造設備のメンテナンス	8	2	再生可能エネルギーの活用	14	2	新工法・プロセス革新・DX	3	0
治具工具の設計、評価	6	6	地域電力安定利活用	1	0	廃棄物処理	1	0
DXによる業務効率改善	19	4	工場全体のエネルギー効率化	5	0	治具・工具	1	1
AIチャットボット導入	7	7	薬品・薬液の調達	4	0	省エネ・蓄エネ・再エネ	1	0
廃棄物のリサイクル・処理	11	5	金属加工部品の調達	5	5	素材	1	0
機械作動油のリユース	4	0	製造設備のカスタマイズ	6	1	流通・在庫管理	2	0
純水・水素のリユース	2	1	技術者の育成コンテンツ	8	4	その他	7	3

面談企業一覧 (五十音順)

アーク・システム・ソリューションズ(株)	(株)EvoQuest	(株)キメラ	(株)三五北海道	(株)テクノフェイス	(株)八神エモーション	三好梱包商事(有)
イーグル工業(株)	SOC(株)	(株)京進機工	(株)シイエヌエス北海道	東京コンピュータサービス(株)	早来工営(株)	メイトク北海道(株)
(株)池田熱処理工業	SCSK北海道(株)	(株)公清企業	昭和興産(株)	TOPPAN(株)	富士フイルムビジネスイノベーションジャパン(株)	(株)安川メカトレック
石垣電材(株)	環境開発工業(株)	(株)コスモ設計	シンセメック(株)	日鉄テクノロジー(株)	北都システム(株)	ユアスタンド(株)
岩倉商事(株)	協業組合カンセイ	三機工業(株)	大日本印刷(株)	日鉄テックスエンジ(株)	松田産業(株)	(株)ワールド山内



取引活性化WG 2024年度の取組方針

- 2024年度は、2023年度に試行した各取組を継続実施するほか、物流面の状況変化を踏まえた影響調査などを実施したい。

①半導体・電子デバイス関連企業の情報精査

2023年度に作成したサプライチェーンマップについて、企業情報の更新を実施。（随時）

②取引機会の拡大

2023年度に道内企業を対象に行うビジネスマッチングについて、開催結果を踏まえて、引き続き道内開催も視野に入れつつ、並行して道外地域との連携開催を検討。

③半導体関連企業の課題に対応する各種取組の実行

- ・政府施策に関する情報発信（税制、補助金、雇用対策、BCP、貿易 等）
- ・道内進出が見込まれる企業及び既存の道内企業に、道内半導体・電子デバイス企業との共同物流の可能性や課題等を調査。
- ・道内半導体・電子デバイス産業の外部環境調査（物流コスト等に関する課題や関連法規制の整理）
- ・道内企業を対象とした、半導体・電子デバイス業界への参入促進に向けた技術力等向上のための勉強会、講習会 等

2024年度のスケジュール

【本会議】2024年7月頃、2025年3月頃

【WG】 2024年秋頃

その他、各企画の詳細は随時、関係機関で調整